



## 浮羽究真館高校ラグビー 日本一への道 Vol.1

浮羽究真館高校ラグビー部の魅力を届けたい

浮羽究真館高校ラグビー部のイメージや良い所を先生方に直接インタビューしました。

今回はその結果と吉瀬晋太郎監督の紹介をしたいと思います。

### 浮羽究真館ラグビー部はどんなイメージ?

#### 山口校長先生

第一印象はさわやか。小さい身体で大きな相手に怖がらず突っ込んでいくのがすごい。何でも一生懸命真面目に取り組んでいるイメージがある。一生懸命取り組んでいる部員達が小さくなる必要はないからいい意味で学校の中心となって他の生徒たちを引っ張っていって欲しい。

#### 柴田先生（プロモーション担当）

ボランティアなどで、学校と地域を繋いでくれる。普段も学校を活気付けてくれる。

#### 体育科 長門石先生

一番気合いが入っていて頑張っている。本気でぶつかる試合を見てすごいなと思った。明るく愉快でラグビーが大好きなんだなというのが伝わる。



UKIHA\_RYUSHINKAN\_RUGBY



## 日本中に感動・笑・夢を届けること 目指せ日本一

### 吉瀬晋太郎監督自己紹介

きちぜ しんたろう 昭和60年8月21日浮羽町生まれ



浮羽高校→京都産業大学→住友林業株式会社→京都教育大学・滋賀大学・佛教大学・京都産業大学（科目等履修生）→春日高校勤務→浮羽究真館高校勤務

長所は「情熱・誠実・行動力」です。その根底には「真の自分を貫きたい」という思いがあります。そのことで周囲の方々に「何かしらの価値」を提供できれば幸せです。

2015年、私は母校である浮羽究真館高校に赴任、ラグビー部監督となりました。

当時、部員は10名程度で、無秩序であり、部員は自信のない目をしていました。

私は、彼らを変えたいと心の底から思い、彼らに自信をつけさせることが私の使命だと感じました。

自信をつけさせるためには、試合に勝つことです。勝利（相対評価）は彼らに最も自信をつけさせる材料です。

私は「高校ラグビー日本一」を目標に掲げました。勝利を目指すことで、その過程（絶対評価）において彼らは人として成長します。そして私たちの活動を通して、「高校ラグビー部としての独自の価値」を多くの方々にも提供したいと考え、「日本中に感動・笑・夢を届ける」という理念を掲げ、部員と共に日々努力をしています。

「高校ラグビー日本一」その挑戦に、うきは市の皆様から多くのご支援とご協力を頂いておりますことに、この場を借りて感謝申し上げます。今後はラグビーを起点として地域課題の解決にも尽力したいと思っています。